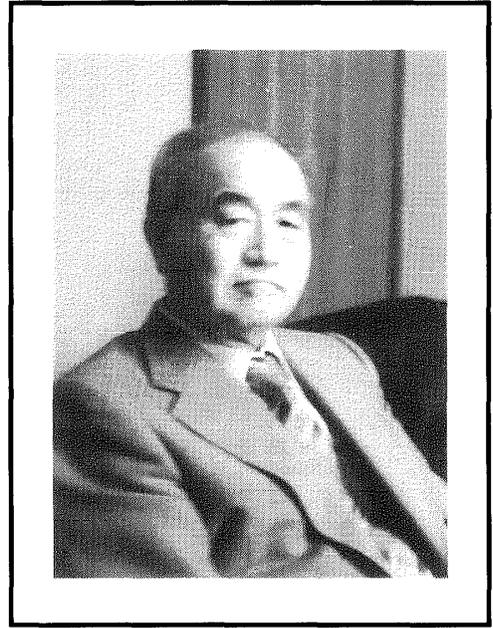


小野勝次先生を悼む

8月18日、本学会元会長の小野勝次先生が逝去されました（享年92才）。ここに謹んで先生のご冥福をお祈り申し上げます。

先生のご専門は数学の基礎論と論理学で、国際的な学者であると同っています。ORとの接点について訝る方もあるかもしれませんが、先生は大変幅の広い方で、例えば陸上競技の競歩の選手で数多くの記録保持者ですし、スポーツ団体の役員をされたり、お若い時には相撲部屋に勧誘されたり、かつて上手投げの名手として勇名を馳せた大関清水川と親交があったと同っています。大変な大食漢でもあり清水川関と握り寿司の食べ比べをして2~3個の差で負けて悔しがった、というエピソードもあります。一言で言えば凄い先生でした。

小野先生がOR学会において果たされたご功績は、先生の業績全体からみればほんの一部に過ぎないと思いますが、それでも大きな足跡を残されました。OR学会は当初（昭和32年6月15日）任意団体として発足し、昭和47年5月23日社団法人として認可されました。法人化にあたって初代の会長を引き受けられたこと等、数多くありましたが、最も大きな功績は中部支部の月例研究会を育てたことだと思います。中部支部は、昭和36年10月に発足し、支部活動の牽引役は小野勝次先生でした。この月例の研究会は参加した企業から職場の問題について説明して、それを参加者全員が考え、意見を述べ合う形式で、小野先生はその中の御意見番という形でした。職場のドロドロした話題にも根気よく付き合ってくださいました。先生のご指摘は楽しく、また時には辛辣で、説明者の問題意識を全くひっくり返すようなこともありました。特にモデル化するまでについて有益な指導をしてくださいました。それこそ問題の原点まで突っ込んで、問題の型を見定めていくやりかたでした。先生は「型」というものに非常にこだわりをもっておられました。陸上競技の運動の型について針金で骨組みを作って、粘土で肉付けをした人形を作って研究しておられました。先生のお宅でスポーツ談義のコンパをよくやりました。奥様には随分ご迷惑をかけていたのかもしれませんが。相撲が始まると先生の方から声をかけてくださいました。



時には研究会のハイキングもやりましたが、先生のご家族も参加され、「歩くことについてはとても敵わない」と思い知らされました。今となっては楽しかった思い出になりました。

本当に先生には名残り尽きません。改めて心からご冥福をお祈り申し上げます。（本告光男）

故小野勝次氏略歴

明治42年4月10日生れ

〔学 歴〕

昭和8年3月 東京帝国大学理学部卒業
昭和10年4月 東京帝国大学理学部大学院退学
昭和14年12月 理学博士

〔職 歴〕

昭和8年4月 武蔵高等学校講師
昭和15年3月 同 教授
昭和17年4月 名古屋帝国大学助教授
昭和18年3月 同 教授
昭和44年4月 静岡大学学長
昭和44年6月 名古屋大学名誉教授

〔受 賞〕

昭和29年5月 日本学士院賞
昭和55年11月 勲2等旭日重光章

〔OR学会〕

中部支部支部長 昭和39~46年度
副 会 長 昭和39~40年度
フェロ 昭 和 42年度
会 長 昭和47~48年度
名 誉 会 員 昭和50年度